

飛騨市学園構想

SUPER COMMUNITY SCHOOL

令和6年度飛騨市学園構想
カリキュラム部会の活動



令和6年度の飛騨市学園構想は、防災教育につながる教科学習や地域の資源を生かしたカリキュラムの作成に取り組んできました。今回はその取り組みを紹介します。

◆保育園から高校までをつなぐ 「飛騨市防災教育MAP」

保育園、小、中、高校、特別支援学校の代表者が集まり、それぞれの発達段階で、災害発生時にどんな行動がとられるとよいか、そのために、日頃からどんな力を付けておくとうよいか

を整理し、「飛騨市防災教育MAP」としてまとめました。そして各校で防災にかかわる訓練や特別活動、各教科の学習や総合的な学習の取り組みについて交流しました。

今後は「飛騨市防災教育MAP」とあわせて事例集を作成して、さらに各校の活動に活かせるようにします。

◆防災教育につながる教科の学び

すべての学校で教科学習と「命を守る訓練」などの行事、総合的な学習の時間等を関連付けることで、防



防士さんと対話をしながら考えを深めます



実際に見ることでより実感につながります

災に関わる学びを深めることを重視しています。そして地域の防災士さんや飛騨市役所の危機管理課の職員から、専門的な知識や現場経験での生の声を聞き、「自助・共助・公助」のことを学んでいます。

来年度は、さらに縦や横のつながりを広げながら、より災害時の対応力をつけていくことができるように進めていきたいと思っています。

問 学校教育課 ☎0577-73-7494

今月のゼロカーボンアクション

Imagine the future!

飛騨市から世界を変えていこう



脱炭素の認知度

市が目指す
市民の脱炭素認知度は

100%

昨年度、各イベントで市民を対象に行ったアンケートによると、「脱炭素」という言葉を聞いたことがある方は約66%でした。市民の約3分の2の方は、脱炭素を認知しているということですね。今後市の100%の人たちが脱炭素を理解し、行動が促進されていくように取り組みを進めていきます。美しい飛騨市の環境保全のため、みんなで脱炭素行動を行っていきましょう。

年間のCO₂削減量 ・エアコン26kg/台 使用時間を1日1時間短くした場合

脱炭素行動例

省エネ

LED電球の使用：

蛍光灯や白熱灯からLED電球に変えると、エネルギー消費を大幅に削減できます。

家電の使い方の見直し：

使っていない家電はこまめに電源を切る、エコモードを活用するなど、効率的に使用しましょう。

移動手段の改善

公共交通の利用：

なるべく自家用車などの利用を避け、公共交通の利用をすることにより、CO₂排出を削減できます。

食生活の改善

食べ残しの削減：

普段の食事は食べ切れる分だけ作るようにしたり、余った食事は保存して食べ切るようにするなどして、廃棄される食料を減らしましょう。

地産地消：

地元で生産された食材を選ぶことで、輸送に伴うCO₂排出を削減できます。

市の今後の活動

今後市では、地元の企業や学校、団体等と連携して、脱炭素に関するセミナーなどを開催し、SNSなどメディアを活用して情報を広め、脱炭素の認知度100%を目指します。

問 環境課 ☎0577-73-7482

こんにちは 市民病院です

人材育成 プロジェクトチームについて

飛騨市民病院は、急性期から慢性期、在宅復帰支援に至るまで、幅広い医療を提供している地域密着型の病院です。また、医療だけでなく、介護、福祉、保健との連携を図り、地域の方々が安心して暮らせるように「地域包括医療・ケア」を推進しています。そのためには、地域のニーズに応じた質の高い看護師の育成が不可欠です。そこで、職員のスキルアップと、人間味あふれる人材の育成を目指し、令和元年度に「人材育成プロジェクトチーム」（以

下、「JIP」）を院内で立ち上げ、「里山ナース®」という愛称を冠した独自の院内認定看護師制度を設けました。

里山ナース®の定義は、「救急から急性期看護、慢性期看護、地域医療・看取り期まで見据えた、いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護の提供」であり、必要なスキルを身につけるために、日本看護協会が提供する研修を活用した当院独自の育成プログラムを作成し、段階的に能力を高めるよう取り組んでいます。段階ごとに育成プログラムを修了した際には、飛騨市河合町で生産された山中和紙を使用した修了証を授与し、業務で着用するオリジナルのスクラブを贈呈するなど、意欲を持って取り組める工夫をしています。

また、JIPでは、幅広い分野を親しみやすく自律的に学べるよう研修の企画も行っています。スキルアッ

プを目的とした研修の受講や資格取得のための知識向上だけでなく、飛騨市民病院が所在する神岡町の理解を深めるため、時には野外に出て「まちなか散策」や「介護施設見学」を行い、地域性の理解を深めています。

今後は、里山ナース®で得た知識を地域住民の皆さんに還元できるよう、地域に向くことを視野に入れた活動を考えています。



里山ナース®のオリジナルキャラクター
「SACCHI」

問 飛騨市民病院
☎ 0578-82-1150



そろそろ 終活

<その60> はじめませんか？

大切なペットと 自身のために

大切な家族のためでもある終活ですが、そこにはペットも含まれており、ペットの終活はペットのためでもあり、飼い主のためでもあります。

飼い主に異変が起きた場合、同時にペットの生活にも影響が出ます。

また、ペットの命も当然のことながら永遠ではなく、突然、事故や病気で死んでしまうこともあります。ペットが亡くなることを考えることは縁起が悪いと思うかもしれませんが、命と一緒に暮らすのであれば、

必ず覚悟しなければならないことです。ではペットの終活は具体的には何をすればいいのでしょうか。

まず考えたいのは、病気やケガなど、万が一の時の治療の方針を決めておくということです。もしも重篤な状況に陥った時、少しでも希望があれば治療を続けるのか、または安楽死を望むのかなどを家族と話し合っておくことが大切です。

そして、治療のための医療費はペットの場合、高額になりがちです。現在は、ペットのための保険もあるので、基本的には飼い主の判断ではありますが、加入を検討することも必要かもしれません。

また、さまざまな事情で飼うことができなくなった時、誰かにペットを委ねるといっても考えておかなければなりません。ペットによっては、今までの環境にすぐ馴染めないということも考えられるので、なるべく

新しい場所で順応できるよう、日頃の生活の様子を詳しく書き留めておくことも必要です。他にもペットの情報として生年月日、登録番号、既往歴やかかりつけの病院、食べ物の好みなども書いておいてください。

大切なペットと飼い主ができるだけ長く安心して暮らしていけるように、飼い始めたその日からペットの終活を考えてみてはいかがでしょうか。

ペットのための
エンディングノートを
無料で配布
しています。



お申し込みは下記まで

問 飛騨市終活支援センター
(飛騨市社会福祉協議会内)
☎ 0577-73-3214